

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況(2011)

埼玉県で2011年に分離され衛生研究所で確認された3類感染症である腸管出血性大腸菌は、127株と昨年の110株より増加しました。県内分離127株の内訳を表に示しましたが、最も多く検出された血清型は、例年通りO157:H7の64株(50.4%)、次いでO26:H11が38株(29.9%)でした。また、4月から5月にかけて富山県を中心に焼肉店で提供されたユッケを原因とする集団事例から検出されたO111:H-VT2は検出されませんでした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数(2011)

血清型	毒素型	検出数	血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	37	O111:H-	VT1	1
O157:H7	VT2	27	O111:H11	VT1	1
O157:H-	VT1&2	8	O115:H10	VT1	1
O26:H11	VT1&2	3	O145:H-	VT2	6
O26:H11	VT1	35	O165:H-	VT1&2	1
O26:H-	VT1	1	OUT:HUT	VT1	1
O103:H2	VT1	4	合計		127
O111:H-	VT1&2	1			

O157:H7の毒素型別ではVT1&2産生株が37株、VT2産生株が27株でした。分離された127株のうち、45株は患者発生に伴う家族検便や給食従事者に対する定期検便で、非発症者から検出されたものでした。

患者の発生は、例年と同様6月から9月に集中していますが、10月以降は前年の同時期と比べ検出数が多く、今後その動向を注視する必要があります。

今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。